

## 1. 授業の概要(ねらい)

われわれは日々、さまざまなコミュニケーションを行なっています。近年増加しているのは、SNSを介したコミュニケーションです。一方でマス、つまり不特定多数によるコミュニケーションは、減少傾向にあります。

しかしながら、世の中で何が起きているのかを知るのは、主にマス・メディアを通じてです。みなさんもマスの一員です。みなさんが住む「社会」や「世界」を、マス・コミュニケーションの観点から捉え直してみましょう。

2020年は、東京オリンピックが開催されます。オリンピックを通じたマス・コミュニケーションについても考えます。

本講では一部、ペアワークなどを行います。他の参加者と意見や考えを共有しましょう。

## 2. 授業の到達目標

1) マス・コミュニケーションの良い点や悪い点、あるいは問題点や課題を挙げられる。

2) マス・コミュニケーション研究における概念や理論を説明することができる。

## 3. 成績評価の方法および基準

中間試験(50%)と期末試験(50%)を総合して評価する。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

\*教科書は特に指定しない。

参考文献

吉見俊哉 『メディア文化論:メディアを学ぶ人のための15話』 有斐閣、2012年

佐藤卓己 『現代メディア史』 岩波書店、2018年

## 5. 準備学修の内容

▼授業では新聞記事を多用します。新聞記事や授業の内容から、1)興味関心を広げ、2)関心を絞り込み、3)特定の事例について調べ、4)再び受講してください。

▼毎週、1)から4)を繰り返し、2回の試験に臨んでください。リアクションペーパーやペアワークについても、同様です。

## 6. その他履修上の注意事項

▼後期に「マス・コミュニケーション論II」を履修することが望ましい。

▼アクチュアルな時事問題を積極的に取り入れていきます(例:京都アニメーション放火殺人事件、「教師間いじめ問題」)。そのため、シラバス上の授業内容と相前後する場合があります。

▼学びは「やる気」がすべてです。「興味」から出発し「深める」、このすべての過程に、やる気は欠かせません。コツは「楽しむ」こと。楽しむことができれば、自ずとやる気がわき、継続できます。ただし、ここでいう「楽しみ」は、遊びのそれとは異なります。大学ならではの知的な楽しみを共有しましょう。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス、イントロダクション
- 【第2回】 マス・コミュニケーションとは何か
- 【第3回】 近代化とマス・コミュニケーション
- 【第4回】 基礎的な概念
- 【第5回】 マス・コミュニケーション研究のパラダイム①
- 【第6回】 マス・コミュニケーション研究のパラダイム②
- 【第7回】 古典的理論
- 【第8回】 前半のまとめと中間試験
- 【第9回】 中間試験のフィードバック
- 【第10回】 マス・コミュニケーションの理論①
- 【第11回】 マス・コミュニケーションの理論②
- 【第12回】 メディアと戦争
- 【第13回】 オリンピックとマス・コミュニケーション
- 【第14回】 質疑応答とペアワーク
- 【第15回】 まとめと期末試験